

令和6年度地域学校協働活動事業 目標と達成度

課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の 数値	単 位	本年 度の 目標 値	本年 度の 実績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上の 課題	01 教職員の時間外 勤務の是正	学校行事の準備や雑務等に追 われ、子どもに向き合う時間が 十分に確保できない。	現在8小学校に14名と3中学校に7名 の地域学校協働活動推進員を配置し ているが、残る7小学校と3中学校に推 進員を配置し、学校のニーズに応じ て、地域ボランティアを募り、実際に活 動する。推進員は学校と地域の連絡調 整等を担い、教員の業務負担軽減を 図る。	令和5年度現在、地域学校協働活動推 進員が未配置の7小学校と3中学校に推 進員を配置する。	免許を有する教員でなくてもでき る作業等を地域ボランティアの方 に行っていただくことにより、本来 の業務に専念できるようにし、教 員の業務負担感が軽減する。	アンケートにより、実際に 負担感が減少したと回答 する教職員の割合	80	%	90	90	3 家庭科ミシンなどの授業補助、書初めの展示作業などの作 業、校外学習引率補助や水泳の授業見守り、登下校の見守 りなど安心・安全面での多くの学校支援をしていただき、多く の教職員が負担軽減につながったことを実感している。
①学校運営上の 課題	02 社会に開かれた 教育課程への対応	地域の歴史的文化財や地域の 特性を知らない児童生徒が多く、地域の一員としての自覚に 乏しい。	モデル校においては、推進員が仲介役 となり、地域の歴史研究グループや地 元商店街等との連絡調整等を担い、児 童生徒の学びの場を提供する。	各校の運営協議会において、地域を対 象とした学習教材の発掘や講師の人材 について検討する。	地域の文化的価値や特性を知る ことにより、児童の地域の一員と しての自覚が高まる。	新たな地域教材の活用回 数	8	事 業	12	12	3 新たに戦争の語り部の会を実施したことや地元商店街との 連携活動を行ったことにより、児童の学びが深まるとともに、 地域への愛着が増した。
②学校と地域の 課題	02 青少年の健全育 成	地域防災や地域公民館行事等 に参加する中学生ボランティア は、学校が窓口として対応して おり、地域との結びつきが弱 い。また、対応する担当教員の 時間外勤務の負担も大きい。	3中学校に配置した推進員が学校と地 域の窓口となることで、中学生ボラン ティアの募集や当日の対応などを地域 住民によって行うようにする。	6中学校すべてに地域住民を推進員とし て配置することで、地域ボランティアに参 加する中学生の対応を行い、地域と中 生生の結びつきを強める。	・中学生ボランティアの対応を地 域住民が行うことで、生徒たちと 地域の結びつきが強まると同時 に、生徒の地域の一員としての 自覚が高まる。 ・担当教員の時間外勤務の負担 も軽減できる。	地域ボランティアに係る休 日の時間外勤務の日数	105	日	60	50	2 中学生の地域ボランティアの当日の対応や記録を推進員が 担うことにより、教員の休日の時間外勤務が減るとともに、生 徒と地域住民との関係がより密接になった。